大学院人間文化総合科学研究科（博士前期課程）

令和５年度４月入学試験問題

【社　会　人　特　別　選　抜】

生 活 文 化 学 専 攻

〔専 門 科 目〕

試験日：令和５年１月２８日(土)

注　　意

１．試験科目は，受験票の志望研究領域の第１志望に記入した科目を選択すること。選択にあたっては，別紙「志望専攻・コースごとの受験すべき試験科目について」を参照すること。

２．解答は，別添の解答用紙を使用すること。必要に応じて複数枚を使って構わない。（２枚同封，３枚目以上は監督者に申し出ること。）

３．使用する解答用紙のすべてに受験番号，氏名及び選択した試験科目名を記入すること。

４．総ページ数　－　２ページ（１ページ目は下書き用紙）

試験科目名：**比較歴史学**

1．以下は、ジュディス・バトラー（竹村和子訳）『ジェンダー・トラブル―フェミニズムとアイデンティティの攪乱―』（青土社、1999年）の一節である。セックス（生物学的性差）とは、所与のものではなく遡及的に捏造されたものにすぎないとして、その構築性を主張したバトラーのジェンダー論の要点を、下線部（「実際おそらくセックスは、つねにジェンダーなのだ」）の意味がわかるように説明しなさい。

問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。

2．以下から1問選択して解答しなさい。

（1） 日本では1990年代後半から2000年代にかけて、選択的夫婦別姓やジェンダーフリー教育導入の動きに対し、ジェンダー・バックラッシュと言われる現象が起こった。その政治的背景に触れながら、ジェンダー・バックラッシュ研究の可能性について、具体的な手法を明示して論じなさい。

（2）1960年代後半以降、アメリカを中心に始まった第二波フェミニズムでは「個人的なことは政治的なこと（The personal is political）」というスローガンが掲げられた。このスローガンに込められた意味を踏まえながら、第二波フェミニズム運動の意義と限界について論じなさい。